

2022(令和4)年度 事業報告

(2022(令和4)年4月～2023(令和5)年3月)

I. 法人の概況

1. 設立年月日 2008(平成20)年12月25日

2. 定款に定める目的

本法人は難病小児を主たる対象とする自然体験施設の運営に関する事業を行い、難病小児とその家族の「QOL(生活の質)」の向上や心のケアに寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 難病小児等のための自然体験プログラムの企画及び実施
- (2) 難病小児等のための自然体験活動に関する啓発・普及
- (3) 難病小児等のための自然体験活動に関する調査及び研究
- (4) 自然体験施設の貸与
- (5) 農産物及び加工品等の販売
- (6) 生活雑貨用品の販売
- (7) ロイヤリティー事業
- (8) 前各号に附帯又は関連する一切の事業



「見晴らしの丘からみた専用施設群」

4. 主たる事務所・支部の状況

「主たる事務所」北海道滝川市江部乙町
「従たる事務所」なし 4264-1

5. 役員に関する事項

(2023(令和5)年3月31日時点)

役職	氏名	常勤・非常勤	所属(職業)
評議員	池野 隆光	非常勤	一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会 会長
	小林 勝子	非常勤	元 滝川市立病院看護部長 看護師
	鈴木 忠男	非常勤	一般社団法人滝川市医師会 顧問 医師
	鈴木 洋之	非常勤	PwC Japan 合同会社 顧問 公認会計士
	平野 泰樹	非常勤	國學院大学北海道短期大学部 学長
	前田 康吉	非常勤	滝川市長

評議員	丸山 健	非常勤	丸山健・法律事務所 弁護士
	明円 直志	非常勤	滝川商工会議所 会頭
代表理事	細谷 亮太	非常勤	聖路加国際病院 顧問 小児科医
業務執行理事	佐々木 健一郎	常勤	公益財団法人 そらぶちキッズキャンプ 事務局長
理事	赤松 利恵	非常勤	お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系 教授
	木村 節子	非常勤	元 東海大学医療技術短期大学 小児看護学 講師
	木幡 美子 (岡 美子)	非常勤	株式会社フジテレビジョン CSR 推進部 部長
	齊藤 ひとみ	非常勤	滝川市立病院看護部長 看護師
	笹川 祐子	非常勤	道産子社長会 会長 東京滝川会 副会長
	富山 睦浩	非常勤	一般社団法人日本チェーンドラッグ ストア協会 SDGs 委員会 顧問
	松橋 浩伸	非常勤	滝川市立病院 院長 医師
	宮本 和俊	非常勤	前・旭川医科大学医学部 教授 小児外科医
	山内 康裕	非常勤	一般社団法人滝川国際交流協会 理事・滝川市役所
監事	松浦 聖一	非常勤	北門信用金庫 常務理事
	宮崎 英彰	非常勤	A・I 税理士法人 税理士

6. 職員に関する事項

	2020年 (令和2年) 4月	2021年 (令和3年) 4月	2022年 (令和4年) 4月	2023年 (令和5年) 4月
正規職員数	9名	7名	8名	10名
非正規職員数	10名	4名	4名	4名
合計	19名	11名	12名	14名

II. 事業の状況

1. 事業の実施状況

コロナ禍3年目である2022(令和4)年度は、引き続き感染症対策を徹底しながら、
今後のwithコロナも見据え、以下の事業を実施した。

(1) 難病小児等のための自然体験プログラムの企画及び実施(キャンプ事業)

活動1: 難病とたたかう子どもとその家族を、全国各地から招待してキャンプを実施する。

2022(令和4)年度は、1キャンプごと、同居する1家族に限定した、キャンプスタイルへの変更を
継続し、計9回実施した。なお、キャンプ参加者は、合計で9家族38名であった。

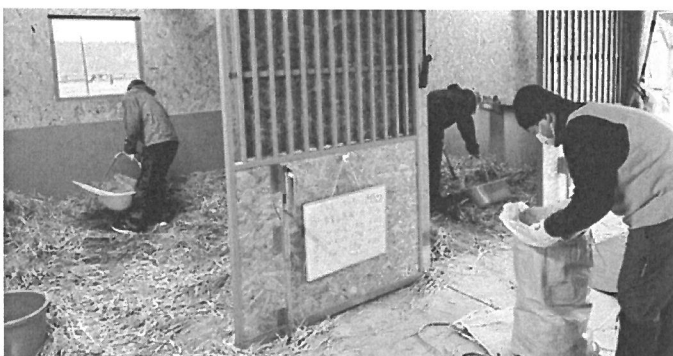
実施したキャンプ等の活動詳細は以下。(計画準備のみで中止になった5月キャンプも記載)

「宿泊ファミリーキャンプ」計4回 4家族15名参加

- 5月27日(金)～29日(日) 2泊3日 成田赤十字病院より小児科医1名同行
→1家族4名(千葉県在住) 小児がんとたたかう子どもと家族 ※病状悪化で直前中止
- 7月29日(金)～8月1日(月) 3泊4日 国際医療研究センター病院より小児科医1名同行
→1家族4名(千葉県在住) 人工呼吸器をつけた子どもと家族
- 9月2日(金)～5日(月) 3泊4日 静岡県立がんセンター病院より小児科医1名同行
→1家族4名(静岡県在住) 小児がんとたたかう子どもと家族
- 11月12日(土)～14日(月) 2泊3日
→1家族3名(愛知県在住) 小児がんを経験した子どもと家族(元キャンパー)
- 2月10日(金)～13日(月) 3泊4日
→1家族4名(神奈川県在住) 小児がんの子どもを亡くした家族(元キャンパー)



「馬房施設での馬とのふれあい(7月)」



「馬房清掃など馬のお世話体験(11月)」



「ミニキャンプファイヤーでの焼きマシュマロ(9月)」



「冬の森たんけん(2月)」

「日帰りファミリーキャンプ(北海道在住者対象)」計5回 5家族22名参加

6月、7月に、北海道在住1家族限定の日帰りデイキャンプを開催し、病気や障がいをもつ子どもと家族に、馬アクティビティを中心とした、外遊びを提供した。



「馬房施設でのエサやり体験」



「親子でゆっくり日向ぼっこ」

活動2: キャンプが安全に運営できるようにソフト・ハード面でサポート体制を充実させる。

「医療・食事支援体制等の充実」

- ・少人数参加者への食事提供(試行)として、地元飲食店他の協力を得て、海鮮やザンギ、アイスなど、地元(北海道)を意識した食事提供を行なった。
- ・医療緊急時対応の更なる充実のため、滝川市立病院、砂川市立病院、滝川地区広域消防事務組合へ、綿密な情報交換を行い、協力を依頼した。

「キャンププログラムの充実」

- ・馬アクティビティを充実させるため、馬セラピーのインストラクターを招聘、キャンプ場スタッフ(馬担当)への実地訓練を行なった。また冬季には専門家を招聘し、担当スタッフへスノーモービル講習(実地訓練含む)も行った。

「ボランティア募集・調整」

- ・宿泊キャンプでは、専門資格を持った医療・食事ボランティアの協力を得て医療・食事提供を行なった。
- ・連携している北翔大学(北海道江別市)杉岡ゼミの学生ボランティアが、キャンプ場の維持管理作業(樹木剪定や木製オブジェ製作等)を行なった。



「連携大学による維持管理ボランティア」

「キャンプ場の維持管理及び整備」

- ・施設設備の改修・修繕計画に沿って、ゲストハウスの屋根塗替、大浴場ボイラーの入替、屋外管理乗用機器、除雪機、WIFI 設備新設導入などを行なった。

活動3: 難病の子どもたちが過ごす、全国各地の病院(病室)や自宅に「楽しみ」を届ける。

「キャンプ場ライブ配信」

入院中の子どもたちとキャンプ場を、インターネット回線をつなぎ、映像や音声をリアルタイムに届けることで、会話のキャッチボールをしながら、北海道の自然を感じてもらった。(夏冬計2回実施)

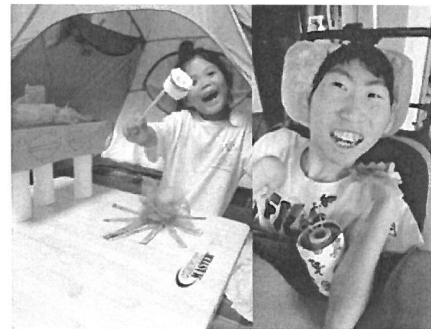
協力:(夏)ウルトラマン基金、(冬)フジテレビ
→41 病院・施設 178 名の子どもが参加



「キャンプ用品ギフト(水耕栽培チャレンジ)」

闘病生活において、自然やキャンプの雰囲気を感じてもらうため、ホームページ上で通年呼びかけている水耕栽培をチャレンジした子どもたち(きょうだい含む)へ、キャンプ用品をプレゼントした。

協力: コールマン
→26 家族 58 名の病児や家族が参加



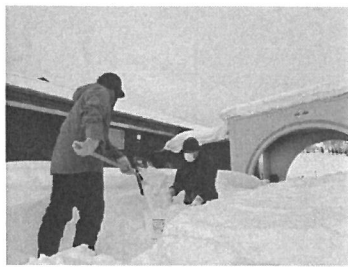
「スノーギフト」

キャンプ場に積もった雪を専用のスノーボックスに詰め、

冷凍空輸にて、雪の積もらない地域の病院や施設に贈った。雪運び協力: 小野薬品工業

→79 箱 約 400 名の闘病中の子どもが参加

雪詰め協力: 北翔大学杉岡ゼミ



「雪の箱詰め(キャンプ場)」



「雪の箱詰め(学生ボランティア)」



「病院への雪運び(企業支援)」



「長期入院中の子どもの雪遊び(病院内プレイルームなど)」

「その他ギフト」

・自然体験 VR は、希望病院へ機器貸出を行なった。(国際医療研究センター、筑波大学)

活動4:元キャンパーたちへ、医療ケア付キャンプ場としての応援メッセージを送り続ける。

「クリスマスカード他の送付」

毎年送っているクリスマスカードを、本年度も元キャンパー約 400 名に郵送した。

「インターン(就労体験)の機会提供」

免疫が低いことなどで、行動に制限がある元キャンパー(成人)を対象とした、インターンとしての受け入れを行い、就労体験の機会を提供した。(計 2 名)



「元キャンパーのインターン」



「元キャンパー全員へ送ったカード」

これまでの参加者 1,217 名 (2022 年度終了時)



家に帰っても、一週間くらい
キャンプのことしゃべらなかつた。
もったいない気がして。

一人じゃないんだ
仲間がいるんだと初めて
感じることができた。

子どもの感想

病気でも、キャンプに
行けてみんなと遊べて
楽しいこともあるんだ。

こんなに楽しいことが
あったら、この先変わる
んじゃないかなと思う。

再発して、再入院して、
いやだったけど、また
そらぶち行けるのかなあ。

キャンパーの居住地

キャンプ参加者の居住地

(2005年～2021年度)

そらぶち
キッズキャンプ

親の感想

こんなに楽しい日が来るとは、
数年前には想像もしていなかった。
これまで家族みんなで
頑張ってきて良かった。

病児、きょうだい、両親、一緒に
楽しめたので、家族同士のいろいろ
な表情を発見できた。あらためて
「家族一緒」が一番楽しいと感じた。

普段の生活に制限がある中で
大自然で過ごしたキャンプは
羽ばたいたような気持ちだった。

私たち家族にとって
このキャンプ地は、新しい
生活のスタートになった。

※アニュアルレポート抜粋

(2) 難病小児等のための自然体験活動に関する啓発・普及(広報PR事業)

「広報イベント・PR 活動の実施」

○キャンプ場一般公開イベント(小規模開催)

医療ケア付キャンプ場を、個人で見学できる機会として例年実施してきた一般公開イベントを再開した。小規模開催とするため告知を限定し、感染症対策を実施しながら、複数の団体ボランティア等の協力を得て開催した。(10/8(土)、10/9(日) 計 100 名参加)



「一般公開イベントでの芝生広場の様子」

○写真展の開催

滋賀県東近江市立図書館において、3/4-31(23 日間)写真展開催希望があり、パネル貸出にて開催協力。のべ 300 名の来場者があった。(協力:小西貴士氏)

○キャンプ場見学の受け入れ、全国各地での P R 講演他

高原環境財団(東京)他の見学受け入れ、アウトドアイノベーションサミット(東京+Web)他での P R 講演を行なった。

「インターネットによる広報活動」

- ・ホームページ(ブログ)の定期更新:1日平均 約 70PV(アクセス数)、50UU(訪問者数)
- ・Facebook(FB)、Instagram(IG)他の定期更新:フォロワーFB 約 2, 150 名、IG 約 650 名

「広報ツールの充実」

- ・キャンプ写真を掲載したオリジナルカレンダーを作成し、400 部配布した。

「マスメディアへの露出」

- ・10 月北海道テレビ放送(HTB)にて、元キャンパーのキャンプ場職員他ニュース特集が放映。
(後日 Web 版にもアップされ約 8, 000 回再生)



「約 10 分のニュース特集(HTB)」

「企業・団体への支援依頼活動」

- ・アウトドアメーカー「モンベル」店舗にて、そらぶち寄付つき T シャツが販売(夏季 2, 000 枚)
- ・支援者(リアル)イベント、10 月東京マラソンハーフ、3 月東京マラソンフルでのブース PR
※ドラッグストア業界からの支援は、多数のため別紙記載

「個人への支援依頼活動」

- ・応援チャリティキャンペーンへの参加等を、講演、イベント、SNS などで通年呼びかけ。

(3) 難病小児等のための自然体験活動に関する調査及び研究(調査研究事業)

以下の関連学会に WEB 上+リアルで参加し、情報収集を行った。

・4/15～17 日本小児科学会@福島(WEBのみ) ・11/25～27 日本小児がん学会@東京

2. シリアスファン・チルドレンズネットワーク(以下SFCN)との連携

当財団は、故・ポール・ニューマンが創設者である難病児キャンプの国際団体SFCNに、正会員として加盟しており、本年度も定期的に WEB 会議等で情報交換を行った。

また本年度も、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、世界中のキャンプ場でキャンプ中止・内容変更等があり、その点での情報交換を綿密に行った。

3. 重要な契約に関する事項

記載すべき事項は特になし

4. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
2022 年 5 月 20 日	1. 2021(令和 3)年度 事業報告 承認の件 2. 2021(令和 3)年度 決算報告(案) 承認の件 3. 任期満了に伴う新理事・監事の理事会案 4. 2022(令和 4)年6月定時評議員会について	WEB+対面 全会一致で 承認・可決
2023 年 3 月 24 日	1. 2023(令和 5)年度 事業計画 承認の件 2. 2023(令和 5)年度 収支予算 承認の件 3. 諸規程の一部変更について	WEB+対面 全会一致で 承認・可決

(2) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
2022 年 6 月	1. 2021(令和 3)年度 決算報告承認の件 2. 任期満了に伴う 理事・監事 の選任の件	書面決議にて 承認・可決

Ⅲ. 法人の課題

記載すべき事項は特になし

Ⅳ. 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実

記載すべき事項は特になし

以上